

まんが王国・土佐推進協議会 令和4年度第1回総会（概要）

日 時：令和4年9月22日（木）13：30～15：03

場 所：オーテピア4階ホール及びZOOM

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員13名（うち1名はオンライン参加）、監事2名

（1） 会長挨拶

（2） 議事

次の議案について事務局から説明があり、承認された。

第1号議案 令和3年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和3年収支決算報告

（3） 報告事項

次の報告事項について、事務局から説明が行われた。

第1号報告 令和4年度全高等学校漫画選手権（まんが甲子園）について

（4） 協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明の後、意見交換が行われた。

第1号協議 令和5年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について
・事業推進部会からの提案（事業推進部会長）

（5） 閉会

第2回総会は、令和5年2月に書面での開催を予定

第1号議案 令和3年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和3年収支決算報告

委員一同承認

第1号報告 令和4年度全高等学校漫画選手権（まんが甲子園）について

事務局より説明

第1号協議 令和5年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

事業推進部会より説明

【A 委員】

- ・まんが甲子園に参加する高校生の皆さんの才能が素晴らしかった。作品を厳選するのに苦労した。高知県がまんが文化の振興をしている成果だと思う。
- ・高校生以外の小中学生にもコンテストに参加してもらいたいと思っている。また、まんが甲子園からプロが出るのを非常に楽しみにしている。

【B 委員】

- ・まんが甲子園は、去年のオンラインも楽しかったが、今年は現地開催ができて本当に良かった。
- ・海外の参加校の増加、世界を「まんが」で繋ぐということについて、高知県として海外と連携されるのか。海外との連携について「まんが甲子園」がリードするという形になるのか。世界に向けた取り組みとして、「まんが甲子園」がどのような立ち位置になるのかご意見をいただきたい。こんな時代だからこそ、まんが文化で世界がつながることは大事だと思う。
- ・海外への募集について、海外の一枚まんがは風刺画のようなものはあるが、日本のように「ひねる」、「大喜利」のようなものがあまりない。そのような文化の違いもあるため、ただ募集をかけるだけだと海外からは応募しづらいのではないだろうか。応募しやすくするために、オチをつけたまんがの作り方のヒントや教材などを作り、テキストをダウンロードできるようにするなど、ヒントを見せると応募しやすくなり、海外からの応募が増えるのではないかと思う。
- ・高校生のレベルアップについて、横山隆一記念まんが館では4コマのコンテストを実施しており、小学生がクラスごとに応募している事例がある。それは先生の熱意や指導によるものだと思う。以前、学校から、まんが甲子園に出場させてあげたいがどうしたらいいかと相談があった。顧問の先生のスキルアップを図ることも考えてはどうか。先生も手がかりが欲しいと思っている。

他校との練習試合など、他校との触れ合いという観点でも実施してはどうか。

- ・まんが甲子園には編集者が来る。出版社への持ち込みをもっとPRすれば良いと思う。
- ・全国漫画家大会議では、過去に書店と連携してゲスト漫画家の単行本コーナーを作るという事例があった。書店への案内など、連携して効果や価値を持たせていければと良いと思う。

【会長】

今年現地開催でのまんが甲子園を開催し、今後、海外との交流を増やしていければと考えている。全国的な少子化により、国内だけに限定すると規模が小さくなっていく。色々と課題はあるが、できるだけ海外に門戸を開き多様な交流ができるようになればと思う。

【C委員】

・今回オンラインでまんが甲子園を拝見した。敗者復活戦の講評を舞台上ですごく丁寧にされたのがとても良かった。入賞作品にも、ここが良かったから選ばれたということを1作品ずつ丁寧に伝えると良いと思う。授賞式の中継中に最優秀賞を受賞した学校への心ないコメントや、高知県の学校へ付度があるのではなどコメントの書き込みがあった。審査基準を伝える、受賞作品の講評を行うことで、選手もだが、見ている人にもどこが評価されて受賞したのかが伝わるので良いと思う。

- ・海外校については、国内大会とは別に海外で予選を行い、代表の何校かが本戦大会に出場できるようなコンテストをするなど、グローバルな大会も視野に入れてはどうかと思う。

【D委員】

・特に高知県民に高知県は「まんが王国」という気持ちを持ってもらえるよう、まんが甲子園、全国漫画家大会議でアピールできれば良いと思う。高知から全国へ広がっていくように、そういう思いを持って具体的な策を検討して欲しい。また、まんが甲子園は、現地開催は熱気があり感激を受けるが、そこを県民にアピールできていないのではないかと思う。

【E委員】

・まんが甲子園は高校生の憧れの場所。教員や生徒は、まんが甲子園に参加、関わったことが励みになっている。

・漫画部顧問の指導について、専門の先生が顧問になっていないが、顧問の中には甲子園に出場したという教員やファンの教員がいる。力のある教員が引っ張っていくというより、まんがが小中学校の頃から不登校の子や、コミュニケーションが不得意な子のよりどころとなるように、草の根のような形でまんが甲子園につながればと思っている。実力のある生徒だけが参加するのではなく、そうでない子も参加して、先生に評価してもらおうということができれば、そこにも意味があると思う。

【F委員】

・ポータルサイトの情報発信、まんが甲子園・全国漫画家大会議の広報がそれぞれ個別に動いているように感じる。まんがに興味があるところに向けた発信をしていると思うが、その際に昨年の内容でもいいので、今年実施することの布石となる告知が必要。まんが甲子園から卒業した人にも情報が伝わるようにすれば、今後の参加者の拡大につながると思う。

【G委員】

・PRや広報について、まんが甲子園と全国漫画家大会議、まんがセンバツがどのように体系づけられているのか分からない。これら3つがどのように体系づけられているか、明確化すると良い。まんが甲子園は箱根駅伝のようなポテンシャルがあると思う。高校球児、駅伝も一つの目標に向かって日々努力している。まんが甲子園も目指す方向性をはっきり見せると目指しやすいのではないか。

・海外に向けた発信について、コロナにより2年間現地開催が出来なかったことで、まんが甲子園が一度リセットされたような状況に思える。もう一度初心に戻り、新たな気持ちで出発したら良い。世界進出はその一つ。世界ではアニメや漫画のイベントが人気がある。フランスのジャンエキスポ、アメリカのアニメエキスポなど、アニメイベントに高知県として出展し、まんが甲子園のアメリカ開催などを考えてはどうか。

・果敢に攻めていくこと、どこよりも先に踏み出していくのが高知県のまんが王国の骨子と思う。ピンチはチャンスという言葉があるように、そのような姿勢を期待している。まんがは世界に発信していけるコンテンツなので、具体的に実施して欲しい。

・世界コスプレサミットが名古屋で行われている。世界各国から勝ち上がってきたコスプレイヤーが名古屋に集まるイベント。コスプレでできるのだから「まんが」でもできるはず。そういった視点で捉えていけると思うので、世界を目指していけるように提案させていただく。

・まんが教室は、どのようなレベルのものかということもあるが、体系づけるという意味でいうと、まんが甲子園の傾向と対策といった、特化した取り組みができると取組の点が線でつながっていくと思う。

【H委員】

・少子化ということがあるので、高校生以外の小中学生だけではなく、大学生、社会人などの部門も作っていけると面白いのではないか。弊社にはデザイナーが150人おり、全員美大出身者だが漫画を書ける人はいない。漫画家になる人はかなり少なく、学年にひとりいるかどうか。そのような方にどうやって参加してもらうかが課題。

・漫画はみんなから欲されていると思う。弊社キャラクターに漫画を取り入れるようとしているが、漫画を書ける人がおらず、外に募集をかけるなどしている。このようなことから、高校生以外に上にも下にもターゲットを広げていくのが重要。

【I委員】

・5年ぶりにまんが甲子園を見て、海外のレベルが高くなったことやツールの進化などが変わってきたなど感じた。デジタルを取り入れた高校があり、海外からデータを送り会場でプリントアウトするなど、これまでは考えられなかった取り組みがあることに驚いた。

【J委員】

・ブランド化が一番の課題だと思う。県内外から見ても、数ある出版社のスカウトなど、中身は素晴らしい。まんが甲子園の魅力を発信し、知名度を上げて学生から学校に対して「まんが甲子園に応募したい」と言ってもらえるようなアプローチ、ブランド化が必要。高知県にまんが甲子園があるんだということを全国に発信しブランド化につなげて欲しい。

・観光について、高校生の多感な時期に高知に来てもらえる。参加者に何を感じて帰ってもらうかで高知の位置づけが変わる。その後にもまた高知に来てもらえるような深層心理への訴えかけが重要だと思うので、イベントを通じて何を高校生に伝えるかなど一緒に考えていきたい。

【K委員】

・かつて我々が子どもの頃は、親に「漫画ばかり読まずに勉強しなさい。」と言われる時代だった。今は小学校の国語の教科書で漫画を取り入れている。中学校、高校でも教科書に漫画が使われている。これは、言葉だけでなく絵など、漫画を一つの表現方法と捉えているということ。漫画を教材にすれば子どもたちに関心を持ってもらえ、授業の導入教材としても使える。文章と漫画を比べてどう違うか、どのような効果があるかといった比較や、4コマやストーリー漫画の話の作り方など、効果が期待される面もある。

・学習教材を作ってもらってとてもありがたいが、知らない先生が多く、あまり認知されていない。各学校の教員が手に取ることができれば十分な教材になると思う。市町村の教育委員会のHPに掲載するなどで、知ってもらえることができると思う。また、県教育委員会のネットワークシステムを活用すると、子どもたちが先生の目を通さなくても利用できる。

【L委員】

・海外では文化の違いもあり、笑えるポイントなどが違うと思う。アニメーションもそうだが、日本の漫画の評価が高い理由はストーリーのほかに、漫画の社会性やその深掘りなどがあると思う。日本と海外とでは文化の違いがあるということ踏まえた上で、世界に出るような作品を求めていくことが必要かもしれない。日本の文化に合わせるというだけではなく、いろいろな文化があるということをベースに展開していくと良い。例えば、アメリカではセサミストリートが教材になっている。最初は数学や、語学の先生が授業で使うために苦労して作り、それが役に立ったと聞く。

・タブレットが県内の生徒に行き渡り、小中学生は基本的に持っている。子どもそれぞれに個性があって、うまいだけでなく、センスなどもある。誰がどの絵を描いたのかもすぐ共有できる

ようになっており、先生よりも子どもの方がツールになれてもっと先にいけるのではと思う。子どもは吸収力があるので、可能性があるように感じる。

【M委員】

・高知県、高知市、高知の市町村でいろいろイベントをやっている。まんさい、まんが甲子園、全国漫画家大会議がそれぞれ4ヶ月離れて開催している。これらが、連携すれば1年を通じた高知のまんが文化を発信するイベントとして人材育成や観光振興にもつながると考える。県、市ということで分けて、予算や運営の面など連携出来るとよいと考える。

【会長】

- ・まんが甲子園をはじめとするイベントをどのように活性化していくか。アピールの仕方など検討していきたい。
- ・海外については、3年後の大阪万博に向けて何かできないかと考えている。また、アニメ産業の集積について、支援していきたいとも考えている。
- ・それぞれいただいたご意見を検討していきたい。